

大手格付会社フィッチ・レーティングスが日本国債を格下げ

- 22日、大手格付会社フィッチ・レーティングスが、日本国債の自国通貨建ておよび外貨建て長期債務格付けの引き下げを発表しました。
- 日本の高水準の債務比率は以前より指摘されていたことから意外感はなく、影響も限定的と思われます。

22日、大手格付会社フィッチが、日本国債の長期債務格付けの引き下げを発表

22日、大手格付会社フィッチ・レーティングス(以下、フィッチ)が、日本国債の自国通貨建ておよび外貨建て長期債務格付けの引き下げを発表しました。

フィッチは格下げの理由として、日本の高水準で上昇中の公的債務比率に伴う国債の信用リスク拡大を挙げています。また、フィッチの関係者は、日本の財政健全化計画は財政面の課題を抱える他の高所得諸国と比べ悠長で、計画実施には政治的リスクが伴うと指摘しています。

(表1)
フィッチ格下げの概要

	格下げ前	格下げ後	見通し
自国通貨建て	AA-	A+(1段階下げ)	ネガティブ
外貨建て	AA	A+(2段階下げ)	

日本の債務比率は以前から指摘されており、意外感はない

今回の格下げはタイミングに意外感があったものの、日本の高水準の債務比率は以前より指摘されており、2011年1月に米国大手格付会社スタンダード・アンド・プアーズが、同年8月にムーディーズ・インベスターズ・サービスがそれぞれ格付けを引き下げていることから、格下げ自体に意外感はないと思われます。

(表2)
日本の主要格付け一覧

		格付け	見通し
フィッチ	自国通貨建て	A+	ネガティブ
	外貨建て	A+	
ムーディーズ*	自国通貨建て	Aa3	安定的
	外貨建て	Aa3	
S & P*	自国通貨建て	AA-	ネガティブ
	外貨建て	AA-	

* ムーディーズ: 米国大手格付会社ムーディーズ・インベスターズ・サービス
S & P: 米国大手格付会社スタンダード・アンド・プアーズ

今後の影響も限定的と考える

今後についても、日本国債の大部分が国内で消化されていること、欧州債務問題への懸念などから、安全資産としての日本国債への需要は根強いと考えられること、縮小傾向にあるものの日本は引き続き経常収支黒字国であること、などから今回の格下げによる市場への影響は限定的であるみています。

(グラフ1)

日本新発10年国債利回りの推移

